

## ごあいさつ

平素は当社事業にご理解・ご支援を賜りありがとうございます。  
「環境経営報告書2008」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

2008年は北海道洞爺湖サミットにおいて、主要議題の一つとして地球環境問題が取り上げられます。世界の人口が増大する中、限られた地球資源を有効に活用し、将来にわたって持続的発展が可能な社会を構築していくことは地球社会全体の課題であり、一人ひとりが取り組まなければならない課題です。

理想科学は、「美しい健全な環境を次世代に引き継ぐために地球的規模での環境保全に貢献する」を理想環境憲章に掲げ、事業活動が地球環境に及ぼす影響を認識し、環境負荷の低減に向けたさまざまな活動を全社で積極的に推進しております。

2007年度は環境に関わる成果として、廃棄物の再資源化処理を進め最終処分率を大きく改善しました。事業活動に伴う二酸化炭素の排出量については、目標にはとどきませんでした。国内全体で80t-CO<sub>2</sub>/年削減しました。また、部品・原材料のお取引先の協力を得て、環境に配慮した部品・部材を調達する「グリーン調達」の仕組みを構築し運用を開始しました。

事業活動全体については、会社法および金融商品取引法に対応した財務報告に係る内部統制の構築を完了しました。また、世界中の理想科学グループ社員が共通の理解のもとに、社会倫理や道徳を尊重し社会の一員であることを自覚した行動がとれるように「コンプライアンス行動指針」を改訂し周知に努めました。

理想科学グループが社会から求められるさまざまな要請に応え、信頼される企業であるためには、法令遵守（コンプライアンス）、経営活動・課題の可視化、適時・適切に情報開示する透明性の3つを柱としたグローバルな体制構築が重要と考え、その実現を進めてまいります。環境経営もグローバルに、より質の高いものとなるよう努力してまいります。

今後とも、皆様からの率直なご意見を頂ければ幸いです。



理想科学工業株式会社  
代表取締役社長

羽山 明

2008年6月